

交差点 信号無視のトラックにはねられ 自転車で道路横断の男性死亡

2015/03/26 神奈川県警察本部 特別編集
20日午前3時30分ごろ、神奈川県の市道で、自転車に乗って横断歩道を渡っていた60歳代とみられる男性に対し、赤信号を無視して交差進行してきたトラックが衝突する事故が起きた。男性は死亡。交差点には横断歩道と信号機が設置されている。警察はトラックを運転していた45歳の男を自動車運転死傷行為処罰法違反（過失傷害）の現行犯で逮捕。男性死亡後は容疑を同致死に切り替え、調べを続けている。

自転車・歩行者に注意！

2時間走行、15分の休憩

春の陽気からくる眠気、環境の変化による疲れ ⇒ 「居睡運転」、「覚低走行」につながる

荷台からの転落、手足の挟まれ事故に注意！

バック時は 降りて確認 乗っても確認

追突、玉突き事故を防ぐ 交差点手前で止まる時は、車1台分のスペースを空けて止まる

交差点 「右左確認／よ～し！」

午後4時 トラックはみ出し バスと正面衝突 1人死亡

2015年3月27日(金)5時55分
26日午後4時すぎ、島根県的高速道路で、対向車線にはみ出したトラックが日帰り旅行の客を乗せたマイクロバスと正面衝突し、バスの運転手が死亡、乗客1人が意識不明の重体です。乗客の女性（66）が意識不明の重体です。また、バスの乗客とトラックの運転手ら合わせて20人が重軽傷を負いました。警察は、トラックの運転手の男性容疑者（24）を過失運転傷害で現行犯逮捕し、事故の原因を調べています。

ドライブレコーダーの導入効果

7割以上が「危険運転が減少した」

2015/03/26 全日本トラック協会 特別編集
全日本トラック協会は3月25日、「平成26年度ドライブレコーダの導入効果に関する調査報告書」を発表した。調査結果によると、ドライブレコーダの装着率は全体で74.4%。

ドライブレコーダを導入した目的・理由は、多くの事業所が、交通事故防止（87.6%）および安全運転指導（82.9%）と回答。次いで、事故処理の効率化（69.6%）、運転状況の監視・確認（63.1%）が続き、燃費改善（省エネ運転指導）を目的にする事業者数は、25.9%に留まっている。

導入効果については、「運転者の安全意識が高まった（危険運転減少）」とする事業所が72.2%、「安全運転指導に活用できた」という事業所も61.4%と高い割合を占めた。事故（第一当事者）が減ったと回答した事業所も76事業所（5.5%）あり、事故件数は、月当たり平均1.31件が0.57件に減少したという。また、事故発生時にドライブレコーダの映像により「事故処理に役立った」という事業所は、522事業所（38.1%）で全体の約4割となり、自車に過失がないことが証明されたなどの事例も報告されている

遠回りを嫌ってショートカット横断

高齢男性がはねられ重体

2015/03/26 大分県警察本部 特別編集
22日午前3時50分ごろ、大分県の市道で、徒歩で道路を横断していた85歳の男性に対し、交差進行してきたタクシーが衝突する事故が起きた。この事故で男性は意識不明の重体。警察はタクシー運転手から事情を聞いている。警察によると、現場には、横断歩道や信号機は設置されていない。聴取に対してタクシー運転者は「前をよく見ていなかった」などと供述しているようだ。男性がはねられた場所から約10m先には横断歩道が設置されていた。警察では男性がショートカット横断を行っていた際にはねられたものとみて、事故発生の経緯を詳しく調べている。